

中国・曙光電子 6L6-G(350C)

都来往人

はじめに

中国最大の真空管メーカー：曙光電子 (Shuguang) では様々なタイプの 6L6 系出力管を製造しています。

一番良く知られているものとしては、通常 ST 管型の中国製 6L6GC としてお馴染みの ST-14 型バルブの 6L6GC-J (原型名：6P3P) があります。

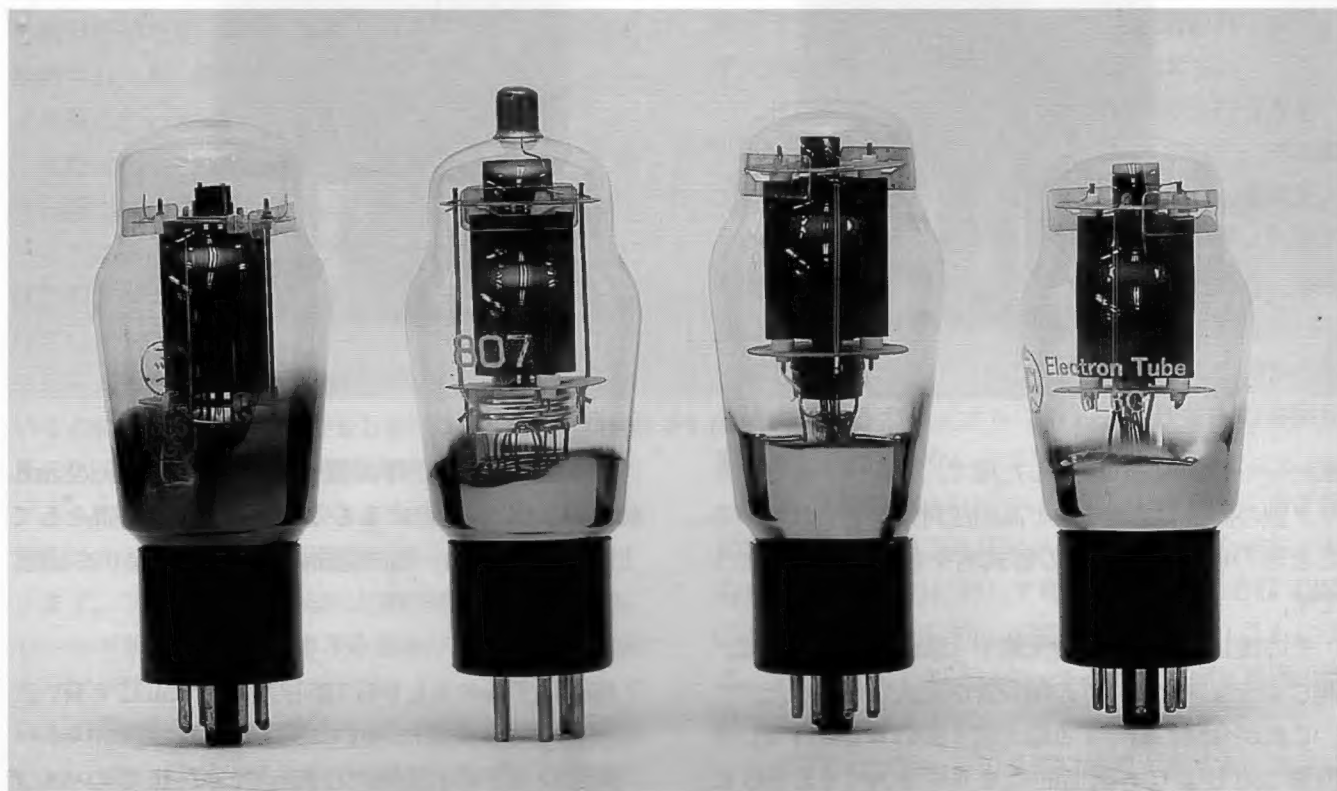
その他にも GT 管では 6L6GC-R や GC-M, GC-

P, 6L6WGB, 5881, KT 66 等があります。

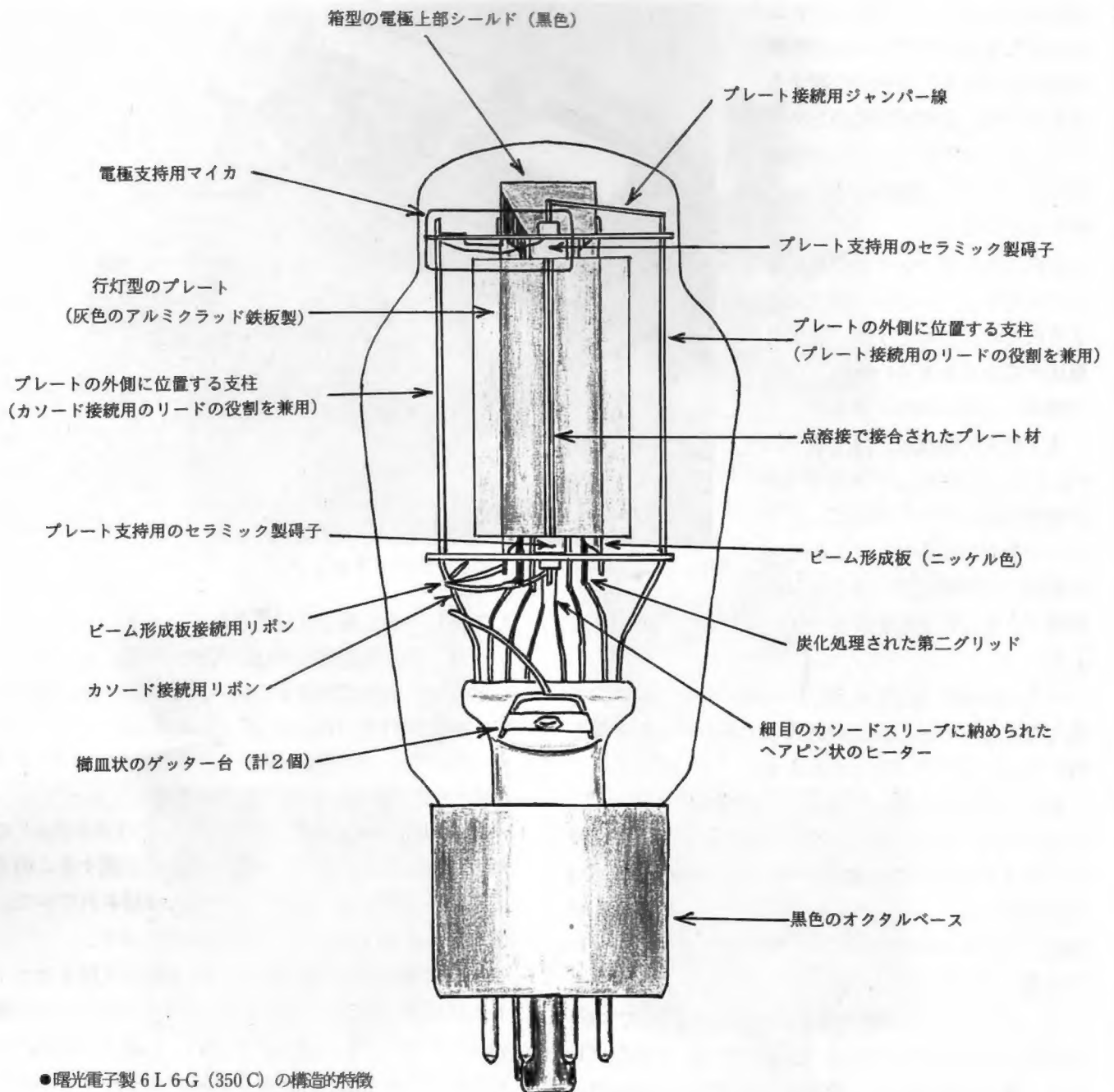
また、大型の ST 管としては ST-16 型バルブの FU-807 (807 の中国版) が以前から製造されています。

さて、90 年代初頭になると、ライバル・メーカーであった柳州 (Liuzhou) の製造による 350 B が Golden-Dragon ブランドから発表されました。

この GD-350 B はオリジナル：WE-350 B の復刻版ではなく、6L6 の高耐圧/送信管バージョンである 807 をシングルエンド化 (= プレートの引き出し線を管頂



●外観を比べる。左よりマツダ 6L6G, 807, 曙光電子 6L6G, 今回紹介する CCI 6L6G



●曙光電子製 6L6-G (350 C) の構造的特徴

子の 6L6-G(350 C) の電極構造は、管頂部の箱型シールドを除けば、戦後間もない頃の国産 6L6-G(マツダ等) によく似ているので、少し懐かしい気がします。

なお、中国製 350 B も曙光電子の 6L6-G (350 C) も G2 は耐損失を稼ぐために黒く炭化処理されています。これは他の中国製 6L6 に共通した隠れた特徴のひとつでもあります。

電気的特徴

曙光電子の 6L6-G(350 C) も他の中国製真空管と同様に規格が公表されていないため電気的な特徴は今のところよくわかりませんが、中国製 350 B と基本構造

はほとんど変わらないため、外見で判断する限り、中国製 350 B や米国系 6L6-G と同じ条件で使えるのではないかと思います。

ヒータはオリジナル：WE-350 B が 6.3 V/1.6 A なのに対して中国製 350 B も曙光電子の 6L6-G (350 C) も 807 や 6L6 と同じく 6.3 V/0.9 A です。

これは両者とも 807 をシングルエンド化した改造品種であるためです。

いずれにしてもオリジナル：WE-350 B とは構造的に大きく異なることから、音質的なキャラクターも異なると思いますので、むしろ 6L6-G の代替品として使用する方がよろしいのではないかと思います。



●オーソドックスな作りで信頼できそう

まとめ

以上のことから、曙光電子の6L6-G(350C)は807を原型とする中国製350Bの親戚のような球ではありますが、807の名残である電極下部にセットされたシールド板がない分、中国製350Bよりもオリジナルの米国系6L6-Gにより近いイメージを持っています。

ただし、プレートの外側にはヴィンテージ期の807によく見られる2本の支柱が伸びていますが、このような構造は戦後間もない頃のマツダ等の国産6L6-Gに見られたことから、懐かしくもあり、私にとってはそんなに違和感はありません。

もともと中国製350Bはオリジナル：WE-350Bとはかなり違った構造の球ですが、私が想像するに350Bの命名の由来は、プレートをセラミック製の碍子で支持するなど、従来の中国製6L6GC(ST14型：曙光電子の正式型番は6L6GC-J/6P3P)をグレードアップした球ということで、6L6系のスペシャル管である銘球350Bの名前にあやかっただけと思われる。

しかしながら350Bを名乗っても中国製350Bは

807の亜流のイメージを払拭できなくて、わりと地味な印象の球です。

これは中国製350Bが開発された90年代初め頃までは既存の品種を改造して新製品を開発する手法が多かったという事情にもよります。

また、従来から生産されている中国製6L6GC(6L6GC-J)にしても、この球はST-14型の小型バルブでベースも短いため、小柄すぎてちょっと物足りなさを感じます。

けれども、ST-16型の曙光電子の6L6-G(350C)は、電極上部の箱型のシールドやステムから立ち上がった2本の支柱など、まだ原型の807の名残がありますが、現行製品の6L6では最もオリジナル6L6-Gに近いイメージの球なので、レトロ調？の新しいユニークな製品ではないかと思います。

最近はオリジナルの6L6-Gがますます入手困難となってきましたので、気軽に使える代替品のひとつとして、興味を惹かれた次第です。

今のところ曙光電子の6L6-G(350C)は、秋葉原の真空管商社よりCCIブランドで販売されているものが一般的に入手しやすいと思います。